

# 令和8年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号

令和8年(2026年)6月2日  
山口県病害虫防除所

## カンキツかいよう病の発生状況および防除対策

5月下旬の巡回調査において、カンキツかいよう病の発生が平年に比べ多く、被害が発生するおそれがあります。

つきましては、以下のとおり防除対策の徹底をお願いします。

### 1 発生状況

かいよう病の発生ほ場率10.5%(平年2.6%)、発病葉率0.8%(平年0.1%)、発病度0.3(平年0.0)で平年に比べ多かった(図1)。

### 2 防除対策

#### (1) 薬剤防除

ア 薬剤散布は、雨が多くなる6月を中心に実施するほか、台風の前後も実施する。

イ かいよう病が発生しやすい品種(高糖系温州みかん、ナツミカン、レモン等)で防除を実施していない園地、または既発生園では、6月上旬と6月下旬の2回防除を実施する。

ウ 既に防除を実施している場合は、6月下旬に防除を実施する。

#### (2) 薬剤防除上注意すべき事項

ア 銅剤(ICボルドーを除く)を散布する場合は、薬害を低減するため炭酸カルシウム水和剤を加用する。

イ ICボルドー66Dは、新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じる恐れがあるので使用を避ける。ICボルドー412は、パラフィン系展着剤を加用して使用する。

ウ 薬剤散布の際は、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止する。

#### (3) 耕種的防除

ア 伝染源となる発病した枝や葉は、できるだけ除去し適切に処分する。

イ 強風による枝・葉の傷を防ぐため、防風樹や防風ネットを整備する。

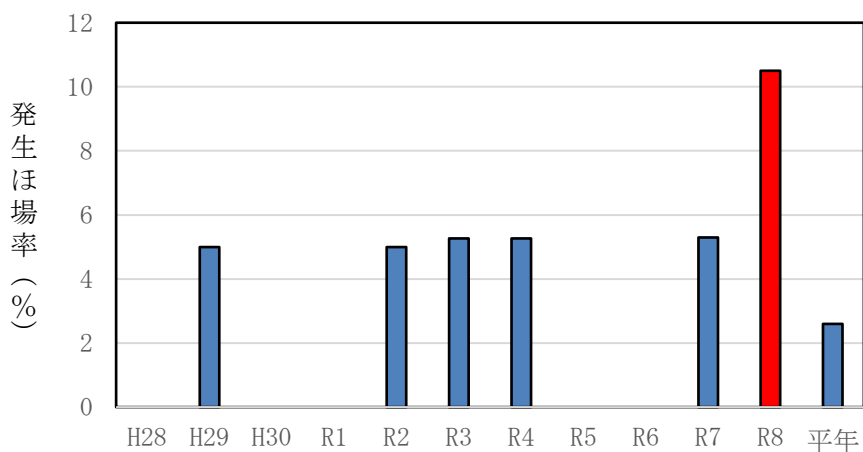


図1 カンキツかいよう病の発生ほ場率 (5月下旬)



写真1 発病葉

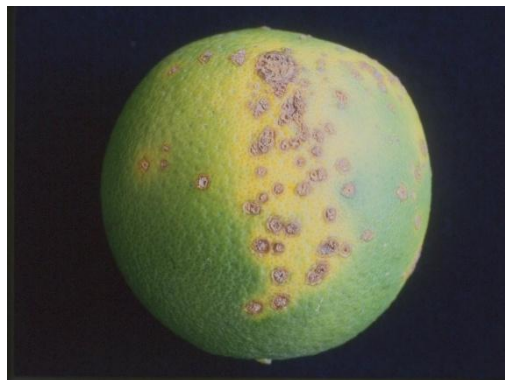


写真2 発病果

別表 カンキツかいよう病の主な防除薬剤一覧 (令和8年6月現在)

殺菌剤コード	一般名(成分)	商品名	希釈倍率、使用液量	使用時期	使用回数	成分含む使用回数
NC	シュードモナス ロデシア	マスタピース水和剤	1000~4000倍、200~700L/10a	収穫前日まで	—	—
24 M01	カスガマイシン・銅	カスミンボルドー	1000倍、200~700L/10a	収穫45日前まで (みかんを除く)、 収穫7日前まで (みかん)	5回以内	カスガマイシンを含む農薬 5回以内
41	オキシテトラサイクリン	マイコシールド	1000倍、200~700L/10a	収穫30日前まで (みかんを除く)、 収穫60日前まで (みかん)	2回以内	2回以内
M01	銅	I Cボルドー 6 6 D	25~200倍、200~700L/10a	発病前~発病初期	—	—
		I Cボルドー 4 1 2	50倍、200~700L/10a	—	—	—
		クプロシールド	1000~2000倍、200~700L/10a	発病前~発病初期	—	—
		コサイド3000	1000倍 (発芽前)、2000倍 (生育期) 200~700L/10a	発芽前、生育期	—	—
		Zボルドー	500~1000倍、200~700L/10a	発病前~発病初期	—	—
		クミガードSC	500~1000倍、200~700L/10a	発病前~発病初期	—	—
M02 M01	硫黄・銅	園芸ボルドー	400~800倍、200~700L/10a	—	—	—
U18	バリダマイシン	バリダシン液剤5	500倍、200~700L/10a	収穫7日前まで	4回以内	4回以内